

事業の概要

【課題】

- ・来訪コストや心理的距離、地域生活・役割の不明確さが、外部人材の継続的参画を阻害している

【取組】

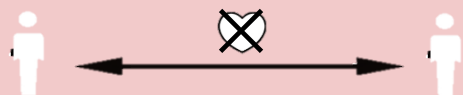
- ・来訪コストを**地域通貨で還元**し、行動データを計測して**最適な還元モデル**を構築
- ・二地域居住者に**ポイント優遇**を設け、地域通貨と連動した生活参加の循環と共助ネットワークを形成
- ・地域通貨を**ふるさと住民票**として活用し、活動実績を可視化することで、継続参加者を将来の外部担い手として育成

【コンソーシアム構成】

- ・一般社団法人白川町移住交流サポートセンター 白川町 ミテモ OKB大垣共立銀行 佐見地区自治協議会

現状

- ・二地域居住者は来訪コストがかかり、足が向きにくい
- ・地域との心理的距離があり、役割が見えにくい
- ・活動実績が可視化されず、継続する動機が弱い
- ・関わりやすい仕組みや共助のつながりが不足している



取組① 来訪コスト還元 × 行動データによる最適モデル構築



- ・モニター30名を対象に、交通費の20%を **地域通貨「しらか」** で還元
- ・来訪頻度、滞在時間、地域店舗利用量などの変化を計測し、来訪を促す“**最適還元モデル**”を構築

取組② ポイント優遇による関係継続の循環づくり

- ・二地域居住者にポイント優遇を設け、日常の買い物や施設利用で地域通貨「しらか」が貯まる仕組みを整備する

- ・地域通貨の利用機会を広げ、**日常行動と結びつける**
- ・“**参加 → 還元 → 再来訪**”の循環を生み出す



取組③ 地域通貨をふるさと住民票として活用



- ・地域通貨「しらか」アプリを**ふるさと住民票**として活用
- ・活動実績(例: 清掃・朴葉寿し作り、スキル提供)を**スコアリング**
- ・ヒアリング等により、ふるさと住民の最適な受入態勢を模索

地域に継続参加する意欲の高い二地域居住者が
“**地域の担い手(係・役員候補)**”として活躍